

# 上新田小「校長室だより」糸半

きずな

平成30年 2月 1日

上新田小学校 文責 校長

平成29年度1月号 N010

教育目標「よく学び 心やさしく たくましく すすんで働く 上新田っ子」

## 平成30年も、早いものでもうひと月が過ぎました。

例年以上に寒い日が続き、春の訪れまでにはまだしばらくかかりそうな今日この頃ですが、いよいよ2月、春は確実に近づいて来ています。2月4日は立春です。今年度もあと**59日を残すのみ**となりました。



## この校舎はあと2カ月ほど！

今年のお正月に、元同僚で本校出身の先輩からの年賀状に「上新田小学校が3月までとなりました。少しさみしく感じます。」とありました。これを読んだ時、やはりこれまで本校で過ごされたたくさんのOBの方々の本校への想いをつくづくと感じました。小学校時代に慣れ親しんだ校舎や運動場、たくさんの思い出とともにいろいろな場面が心の中にあるんだろうなと本当に考えさせられたところでした。



今、上新田小学校の新校舎はすでに完成し、「学びの丘 上新田学園」として子どもたちが来るのを今か今かと待っています。木材をふんだんに使った明るく、そして機能的で、最新式のシステムを備えた大変素晴らしい建物です。防災面でも安心な造りになっています。この新校舎で来年度から子どもたちが新たな歴史を紡いでいくことを考えると本当にわくわくします。



ただ、今年度の年頭の辞及び、始業式で職員や児童に新しい校舎への期待を話しつつ、「今の校舎で過ごしたたくさんの先輩方の気持ちを思い、それを大事にしながらか残り3カ月を過ごしましょう。」と話しました。また、先日の全校朝会では「大きなのつぼの古時計」の時計のように役目を終えるけど、みんなが大事に思っているこの校舎に「ありがとう」という気持ちで、過ごし、お礼をこめて一生懸命そうじをしようということも話しました。

長い歴史を終える現校舎にもう少しお付き合いをして、最後までよい思い出をつくりたいと思います。

地域の方で、校舎を見て回りたいというご希望がございましたら、遠慮なく学校へご相談ください。

## 「これからの子ども達に必要な力として」

先日、あるコラムを読んでいたら評論家の加藤優さんの文章に次のようなことが書かれていました。「2021年は日本の将来にとって重要な年となる。大学センター試験が廃止され、代わりに導入される入試制度はマークシートの知識だけでなく、記述と思考を求めるものが中心となる。旧来の教育を受けた世代にとっては厳しい時代に、生き残りをかけてすべきことは何か。(出典：文芸春秋オピニオン 2018年の論点 100)」今後、日本の教育も徐々に変化していくことが予想されますが、もちろんこれまで大事にされていた学びについては、今後も重要であることには変わりはないと思います。しかし、この文章の中で、これからの日本に必要なとされる人材となるために必要なことがいくつかが挙げられていました。20代、30代に必要な力として英語力、歴史総合や地理総合という新科目についての知識、そしてプログラミング言語などでした。しかし、それ以上に重要なのは「日本語で正確に文章を読み、他人の話を正しく把握し、自分の考えを正確かつ説得力を持つ形で書き、話す力」とありました。

実はこれらの力は、今学校で、これからを生き抜くために非常に重要な力として、いろいろな学びで育成しようとしているものです。ですから、ご家庭でも、読書を勧めただき、家族の会話でもきちんと話を聞き、そして最後まで自分で話すまで待ったうえで、意見を言う等を繰り返すことでさらに効果があるのではと思います。ご協力をお願いします。

